
二十歳の頃

😊 A 班/ 越智 黒澤 中村

☆はじめに

私たちははじめ、取材をするなら有名な企業がいいと考え手当たり次第、大企業ばかりに電話をかけていました。しかし、なかなかアポがとれず焦っていた時に、やみくもに電話をかけるのではなく、学生が多く利用している企業にした方が良いのではないかと考え、数々の文房具を多く手掛けている有名な企業、『ゼブラ』にしました。また、私たちは本を多く読むので本関係の企業にも行きたいと思いました。そこでも、出版社ではなくなかなか注目のいきずらい本の包装関係などのほうが面白いのではないかと考え、『ダイワハイテックス』にしました。

☆会社紹介

- ・株式会社 ゼブラ
- ・設立 1897 年 3 月
- ・代表取締役社長 石川 真一 様
(今回取材させていただいた方は、総務部部長 村上様)
- ・事業内容 文房具の開発、製造、販売

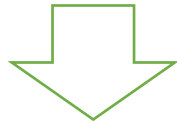
- ・株式会社 ダイワハイテックス
- ・設立 1978 年 3 月
- ・代表取締役社長 大石 孝一 様
- ・事業内容 包装機械、包装資材、書店用関連備品

☆インタビューにご協力いただいた方々について

- ・大石 孝一社長
工学部電気工学科(大学は不明)
28歳のときに会社を設立
- ・村上 多俊部長
関西大学経済学部、ユースホステルクラブ所属
大学卒業後、株式会社ゼブラに就職

☆インタビュー内容

- ①20歳のころの学生生活
- ②20歳のころにやっておいたほうが良いこと
- ③今の若い世代に思うこと
- ④リーダーとして大切なこと
- ⑤就職採用のときに大切なポイント



- ① 【大石社長】工学科で実験もやりつつその合間にアルバイトもやっており、アルバイトでは自分が担当した商品の売上げが上がり、販売や接客の面白さを知ったので、周りの友達が電気系の企業に進む中、自分はビジネスマンになろうと思った。
【村上部長】学業だけではなくクラブやアルバイトなどもやっていて、特にアルバイトでは人との対話から学べること(お客様からの苦情やお褒めの言葉から考えて得るもの)があり、接客業は大切だと学んだ。これが、ビジネスマンになろうとしたキッカケ。
- ② 【大石社長】頭の中で考えるより実際に行動してその経験によって判断をした方が良いと思い、また、二十歳の頃は一番自分の思った通りに行動できる時期だからできるだけたくさん行動に移してほしい！自分で体験した失敗や成功が、将来必ず役に立つ！
【村上部長】自分のクラブ活動やアルバイトの経験を通して、色々な人とコミュニケーションをとることがとても重要だと思ったので、今の若い人たちにも色々な人とコミュニケーションをとってほしい、できることならば、人と関われる接客のアルバイトをして、人と面と向かって関わることの難しさや人との距離感の取り方を学んでほしい！

③ 【大石社長】まず行動しなさい。頭でっかちになってはいけない。まずやってみて、たくさん反省して、試行錯誤すること。

【村上部長】スマートフォン世代のため、直接人と接しなくても会話ができてしまうからいざ社会にでた時に仕事に関わる人との距離感に戸惑ってしまうでしょう。また、ゆとり世代として育っているけれど、社会にでたらそれは関係ない、ギャップが必ずでる、だから世の中は厳しいということを知っておいてほしい。

④ 【大石社長】自分がリーダーとして常に見られていることを忘れない！

【村上部長】集団の目標をはっきりとリーダーが提示すること。

⑤ 【大石社長】短時間でいかに自分を良く見せるかということ。

【村上部長】自分がやりたいこと、目指しているものをはっきりと。個性が大事。海外経験も大切。

☆心に残った言葉

大石社長



人間の成長とは、昨日できなかったことが今日できること。

村上部長



今のゆとり世代の人たちの特徴は、スマートフォンに頼り、人を傷つけたくないが、自分も傷つけられたくないから一つの輪の中からは出ず、その中にふわっといる。

☆考察

私たちの想像していた社長(部長)さんの学生の頃というのは、アルバイトやサークルなどよりも勉強を中心にされていたイメージでした。しかし、実際にお会いしてみても話を伺ったら、そんなことはなく(もちろんちゃんと勉強もしていらっしゃいましたが)、サークル活動やアルバイトなども活発になさっていて、少し思っていたのとは違っていました。そのようなことが、まだ学生でありサークル活動やアルバイトなどにも励んでいる私たちからすると、どこか安心できるようなものがありました。

また、今回のインタビューで得たことは、二十歳の頃(今の私たち)にはまだまだ可能性がたくさんあり(例えば社長になれる可能性とか)、たくさん人と関わり、たくさんいろいろなことを経験して、たくさんつまづいて、たくさん学べ！ということでした。



☆最後に

まず、お忙しい中、私たちのためにお時間をつくっていただき、様々な質問に一つ一つ丁寧にお答えいただいた大石社長と村上部長には深く感謝しています。『二十歳の頃』を終えて、私たちはたくさんことを学びました。また、取材前のアポイントをとることの難しさや厳しさも同時に学びました。『二十歳の頃』は、ただアポイントをとって取材をして発表するという企画ではなく、取材をさせていただいた方の二十歳の頃のお話を伺って、いま二十歳の頃である自分たちがこれからなにをすべきか、無駄な学生生活を過ごさないようにどういう過ごし方をしたら良いかを学ぶためのものであると気づき、学びました。今回の企画で学んだことをこれからの生活に活かし、将来のために無駄な時間を過ごさないように、アルバイトやゼミ活動、勉強を頑張ろうと思います。このような企画をしてくださった加藤先生や協力してくださった先輩方に感謝しています。